長崎都市観光実習の報告

中　尾　　清

1　はじめに

観光学入門を学んだ内容のレベルアップを図るため、2008 年 2 月 6 日から 8 日まで、学生 29 人と小生の総勢 30 人で、観光文化・レジャー実習ⅣB（都市観光実習）としてランタンフェスティバルで賑あう長崎市へ出かけた。本実習の目的は、長崎市をフィールドとして長崎の「都市観光」及び歴史・文化を学び、祭・異国情緒を実地に触れること。そして、長崎県の観光政策にどのように反映されているかを探ることにある。

本稿は、その 3 日間を日記風にまとめたものである。

2　実習の記録

(1) 2 月 6 日（水）

我々が乗船した名門大洋フェリーは、午後 8 時に大阪南港を出港した。少し風はあったが約 9,350 トン、前長約 160 m、幅約 25 m と大きな船なので、ほとんど揺れなかった。順調に航海を続け、9 時過ぎには、明石海峡大橋を通過した。

全員集合したのが左の写真で、後はそれぞれが、客室で談笑（？）したりして船旅を楽しんだ。2 年生のグループは、船室から場所を変えて朝までロビーで談笑したそうだ。非日常生活圏で仲間と共に過ごすので、このようなことも“青春”の一コマとして楽しい思い出になるだろう。

2 月 7 日、新門司港に入港、バスで JR 小倉駅に向かった。皆の表情が素晴らしい。どうです、いい学生たちでしょう。

(2) 2 月 7 日（木）午前

JR 小倉駅 9 時 24 分発「のぞみ 59 号」に乗り込んだ。18 分で、博多駅に到着した。新幹線の車中では、みんなリラックスして、「ピース、ピース」といったところ。

博多駅からは、10 時 02 分発「特急かもめ」だ。JR 九州の駅名つり看板は、ハイカラな感じがする。

赤い「かもめ」もあるそうだが、やはり白い「かもめ」のほうが気分がいい。車内もゆったりしている。車窓から九州

の景色を眺めながら一路長崎へ向かった。

11 時 54 分に長崎駅へ到着した。駅構内は、ランタンフェスティバルの歓迎一色で、着いた瞬間から、異国情緒が漂っていた。

改札口には、小生の友人である前田信行さんが出迎えてくれていた。久しぶりの再会が嬉しかった。前田さんは、2 日間に渡り、長崎を案内してくださり、大変お世話になった。取りあえず前田さんのご案内で、新地中華街の「長崎ワシントンホテル」に“長崎名物”の路面電車で移動した。なんと乗車料金は、100 円だった。ありがたかったが、その金額に驚いた。

(3) 2 月 7 日（木）午後

ホテルに荷物を置いて、午後 6 時までは、各自が事前に計画していた観光地・施設の見学ということで、自由行動にした。

小生は、前田さんのご案内で、本実習がお世話になっている長崎県観光振興推進本部に挨拶に行った。さすが長崎県は、“観光立県”を標榜するだけあって観光推進本部も大きい。しかも「本部長には、民間から登用しており、副本部長は、国からの派遣だという。同一フロアには、（社）長崎県観光連盟も入っており、官民一体となった推進体制を牽いている。

推進本部では、お忙しい中、観光まちづくりグループの本田和人チーフマネージャー、誘致戦略グループの小阪洋之チーフマネージャーから長崎県の観光政策の“さわり”をご教示頂くとともに、資料も頂いた。観光連盟でも総務国際部海外誘致課土井口課長、国内誘致部セールスプロモーション掃守課長と名刺交換をさせて頂き、“ご縁”を結ばせていただいた。どれもこれも前田さんのおかげである。（いずれ「長崎県の観光政策」をまとめたいと思っている。）

＊＊＊

ここで小生の友人前田さんを紹介しよう。前田さんとの出会いは、もう“四半世紀”以上も前、小生が神戸市の観光係長をさせて頂いていたときに遡る。当時、前田さんは長崎県観光課に勤務されていて、ある日私の職場に「外航観光客船の誘致・歓迎行事」について、情報交換でお越しになられた。それからの交友が続いている。なんとなく“ウマが合って！”、職場が変わってからも何かと情報交換させていただいき、仕事の上で大いに参考にさせていただいた。前田さんは、その後、雲仙普賢岳噴火時の観光課長として苦労された。また、長崎旅博覧会に出向されたこともある。当時長崎「旅博」は、“神戸ポートアイランド博覧会のような会場内囲い込み型”ではなく、長崎市内をひとつの博覧会場にするという画期的な博覧会で、2006 年に行われた「長崎さるく博」の魁となったもので、小生も観覧しに長崎に出かけたものである。彼は、もともと人事委員会の勤務もしたことがあって、その後事務局長に就任したり、また、観光行政の実績を買われたのだと思うが、県の部長として交通事業管理者（交通局長）にもなられ活躍された方である。長崎県の観光行政を知り尽くされた、そして、その“裏方”として尽力された功労者である。ここまで経歴を“バラス”と前田さんにお叱りを受けそうだが、行政の先輩であり、人生の兄貴分であり、長崎と神戸と離れており、めったにお目にかか

れないが、いつも励まされており感謝している。つい“筆”が、いや、“マウス”が滑ってしまった。お許しください。

＊＊＊

次いで、明日訪れる長崎文化博物館の建設時のことについてお聞きしようと、長崎県文化・スポーツ振興部文化振興課をお邪魔した。施設調整班の下釜係長が親切に応対していただいた。係長からは、博物館の建設概要、管理概要などをご教示いただいた。県・長崎市が共同で、長崎奉行所の復元も含めて、長崎の歴史文化を一同に学べる博物館を建設していることが、若干うらやましかった。明日の見学が楽しみである。

「長崎さるく博」の情報を得ようと、（社）長崎国際観光コンベンション協会に向かった。ここでは、以前お見知りおきくださった森下さるく事業課長と再会した。森下課長と山下誘致セールス課長が、ランタンフェスティバル初日の忙しいときにも係わらず、対応していただき、資料も頂いた。

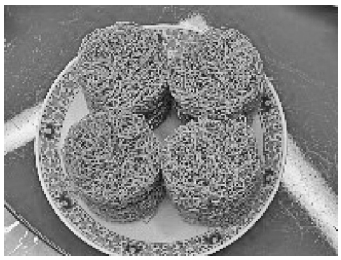
その後、長崎県美術館を見学した。この日の午後訪問したところは、ほとんどがポートサイドで、非常に整備されている。冬場は、人出はすくないが、観光シーズンの賑わいは想像できる。

長崎観光にかける県・長崎市、民間の意気込みがひしひしと感じられた。ガンバレ！長崎。

(4) 2 月 7 日（木）夜

午後 6 時にレストラン「四海楼」に集合した。小生にとっては、随分昔に行ったところなので懐かしい。建て換わっていて、面影はなかったが、なかなか素敵な中国レストランだ。前田さんにもご一緒していただき、四つのテーブルを囲み、中国料理のコースと“ちょっとだけ”ビールを飲んだ。“大宴会”にしたかったが、あくまでも“実習”なので、ほどほどにした。

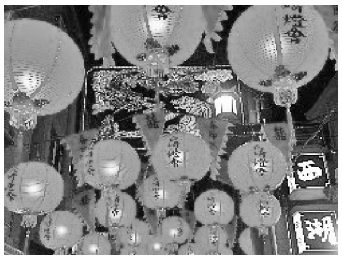
最後には、やはり長崎ちゃんぽんと皿うどんでお開きになった。ちゃんぽんは、四海楼の初代の経営者が考案したという。我々が普段食堂などで食べる皿うどんは、麺の上に餡をかけて出てくるが、ここの皿うどんは、自分で餡をかけて食べられるように、麺と餡が別々に出てくるので、食べ始めから終わりまでの食感が味わえてなかなかよかった。

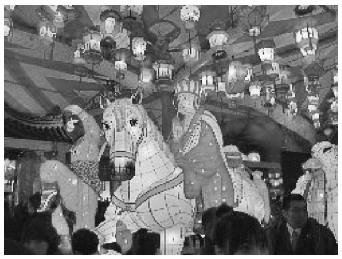


みんな「大満足！」。いざランタンフェスティバルの会場へ。

ランタンフェスティバルのメイン会場のひとつである新地中華街の湊公園に出かけた。会場や中華街には、色とりどりの提灯や中国の歴史上に登場した人物や西遊記に出てくるメンバー達の像などに灯りがともされ、非常に華やかな雰囲気を醸し出している。

午後 8 時になった。今日の最後の出し物である「龍踊り」がステージや会場の通路を所狭



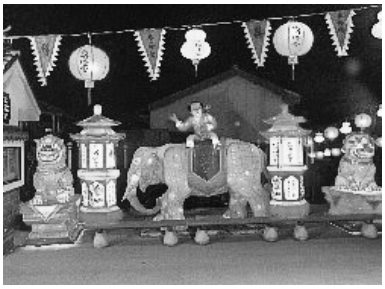


しと“乱舞”した。長崎名物「龍踊り」と中国楽器が奏でる妙なる音に酔いしれた（？）観客は大喜びだ。退場するときに会場から「もってこい。モッテコイ」の掛け声がかかり、「龍踊り」隊は、アンコールの声に応えて戻ってくると、観客からは、大拍手がおこり、会場は熱気がこもった。なにか長崎の独特のエネルギーを感じるひと時であった。

もうここからは、学生諸君は自由行動だ。サーみんな、夜の長崎の魅力を見つけてくるかな。楽しみでもあり、引率者としては、心配でもあった。

(5) 2月7日（木）夜

2月7日の夜は、学生達を自由行動にして、小生も自由行動をした。新地中華街のすぐそばに「唐人屋敷跡」があったので、前田さんに案内してもらって、夜の散歩に出かけた。暗い夜道にランタンが灯り、エキゾチックな佇まいである。ランタンフェスティバルの期間だからであろうか、街路や路地にもランタンがともされていた。普段の夜は開けていないと思うが、「土神堂」「天后堂」「観音堂」などが開いていた。案内板を見ると江戸時代から設置され、中国の人たちの信仰を集めていたという。「土神堂」の前には、ローソク売り場も設けられており、昼間はさぞにぎわったことだろう。



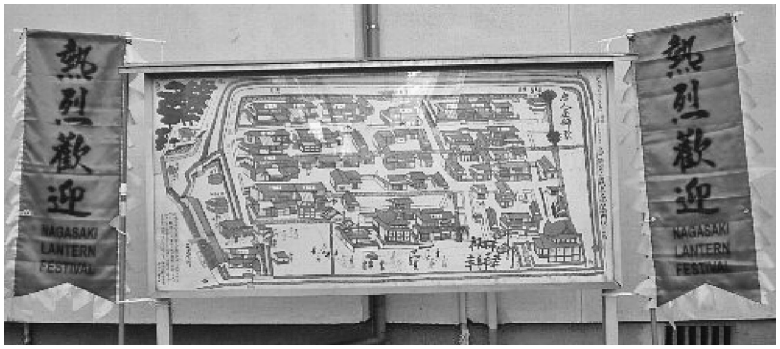
「天后堂」の前の小さな広場にもランタンや像が飾られていた。夜も更けてきた今は、ひっそりとしている。

前田さんと「観音堂」を見て、ぶらぶら「唐人屋敷跡」を歩いていると、昔どこかで見たような、デジャ・ビュ（既視感）というか、何か懐かしい気分になってきた。この答えは、明朝もう一度来て確かめようと思い、10時前にホテルに帰ってきた。

（6）2 月 8 日（金）朝

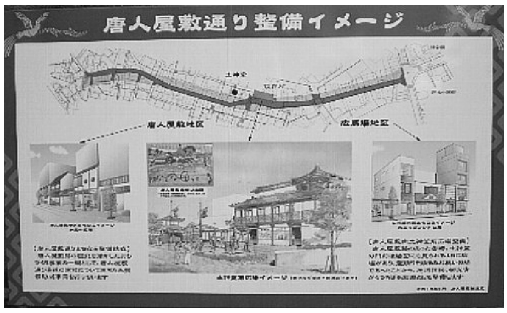
2 月 8 日の朝になった。昨晩感じたデジャ・ビュ（既視感）の答えを確かめようと、集合時間まで時間があったので、「唐人屋敷跡」を散策した。

「旧唐人屋敷」の楼門をくぐっていくと、「唐人屋敷跡」の石碑と看板があった。



江戸期の唐人屋敷は、総面積は 9373 坪もあり、周囲は練塀と竹垣で二十二取り囲まれ、5 棟の番所がおかれて、日本人の番人が厳重に監視していたという。屋敷というから、建物が何棟かあるだけと思っていたら、この絵図を見たら、「唐人屋敷」とは、出島の「オランダ商館」と同じように日本人とは隔離された、いわば「中国人居留地」だったのを知らされて、少し勉強不足が恥ずかしかった。

少し歩くと昨晩見た「土神堂」「天后堂」「観音堂」に行き着いた。看板によると「土神堂」は、「1691 年に唐船の船主たちが建てた」とあるだけで、何を祭っているのか分からなかった。「天后堂」は、航海の安全を願って天上聖母を祀ったので、「観音堂」には、観世音菩薩と関帝が祀られている。



デジャ・ビュ（既視感）のことである。「土神堂」「天后堂」「観音堂」それに昨晩は遅く今朝は早すぎて門が閉まっていたので見ることができなかった「福建会館」などの中国建築と次に掲げる路地の佇まいが、かつて出かけた台北の下町の風情とオーバーラップしたからなのだろう。

「おっ、ここは、中国的な生活の匂いがあり、新地中華街につぐ観光資源になるな」と思っていたら、さすが長崎である。「唐人屋敷通り整備」の計画があり上のような看板が掲げられていた。

（7）2月8日（金）午前

午前9時過ぎ、全員で歩いて長崎歴史文化博物館へ向かった。新地中華街を出発して、「観光通り」アーケードに入ると、アーケードの屋根が高いので、その空間を活かしてランタンフェスティバルの飾り付けがされていた。夜ならさぞ綺麗であっただろうと思ったが、残念ながら今日大阪に戻らなくてはならないので、またの機会にしよう。

「観光通り」アーケードをまっすぐ行くと、こんなクラシックな佇まいのお菓子屋さんに出っくわした。よく残して下さっているなと、嬉しく思った。

その建物をみて、その角を左折して中島川へ、川沿いに行くと眼鏡橋に出た。眼鏡橋は、わが国初の石造アーチ橋である。1634年に唐僧・黙子如定（もくすにょじょう）によってかけられたという。

眼鏡橋を後にして、長崎歴史文化博物館へ向かう。長崎のまちには、「さるく博」後も観光客のぶらぶら歩き（さるく）ためにボランティアの皆さんが、案内をしている。また、到る所に案内板が設置されているので結構何もなしでも散策できるのがありがたい。

長崎歴史文化博物館に到着した。ここは長崎奉行所立山役所のあったところである。長崎県と長崎市が共同で、博物館を建設している。博物館には、長崎の海外交流史に関する歴史資料や美術工芸品、古文書などが展示されている。

我々は、博物館の玄関から入らずに、階段を上って奉行所の正門から入った。8 割ぐらいであろうか、発掘された石段（注：若干色の黒い石段）をそのまま使っている。なんとなく歴史を感じさせられる。

長崎奉行所立山役所の一部が復元されており、見ることができた。

江戸時代の政務を執った「御殿」とか「政庁」「奉行所」「勤番所」の建物が復元されているので、興味深く見せてもらった。

左：奉行所正面、右：書院

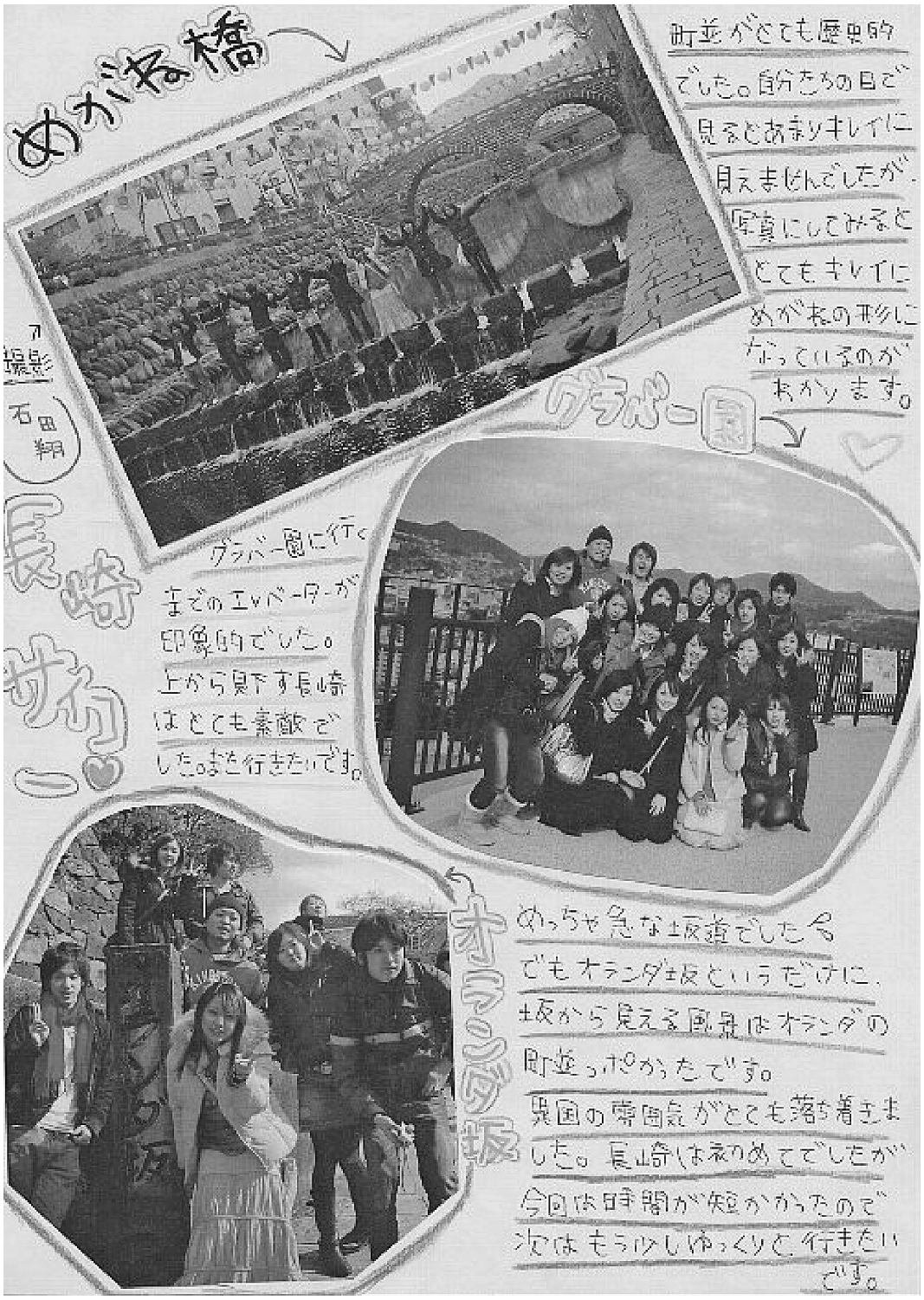
（8）2 月 8 日（金）午後

午後は、長崎県観光推進本部の職員から「長崎県観光の現状と課題」というテーマで講演をしていただいた。「長崎観光」を取り巻く環境や観光産業の重要性、「長崎県観光振興基本計画」の策定、事業者・行政・県民が一体となった取組み等について学んだ。

講演終了後、JR 長崎駅から「かもめ」「ひかり」を乗り継いで、帰阪した。

3　おわりに　ー学生の感想ー

最後に学生の楽しそうな“ビジュアルタイプ”の感想文のひとつを紹介しよう。これを見ていると、学生達は、実習を通して“のびのび”と長崎の都市観光を楽しんだようである。


めがね橋
撮影
石田
長崎サイコー♥
町並がとても歴史的でした。自分たちの目で見るとあまりキレイに見えませんでしたが、写真にしてみるととてもキレイにめがねの形になっているのがわかります。
グラバー園
グラバー園に行くまでのエスカレーターが印象的でした。上から見下す長崎はとても素敵でした。また行きたいです。
オランダ坂
めっちゃ急な坂道でした。でもオランダ坂というだけに、坂から見える風景はオランダの町並っぽかったです。
異国の雰囲気がとても落ち着きました。長崎は初めてでしたが今回は時間が短かかったので次はもう少しゆっくりと行きたいです。

本実習を通して長崎のまちから多くのものを学んだ。特に、長崎県の行政が県民と事業者と手を携え、「長崎県観光振興基本計画」を指針として、都市観光を積極的に推進していることが肌で感じることができた。